

研修の様子

「港」の宗大社長が登壇し、「廃棄物処理業務におけるデジタル化の導入と推進」をテーマに講演。デジタル化のメリットや導入手法について解説した



各社の事例を発表

メンタルヘルスケアなどについて、グループウェア、イスクッションと講演を通じて理解を深めた。同研修会は、協会組織広報委員会の主催の下で定期的に開催

「産業廃棄物処理業従事者の必要性能」を強調。「メンタル不問や困り事についてイスクッション、意見を交換することで解決策を見つけ出しほしい」と述べた。

福岡県「SDGs登録制度」を周年募集 企業等の取組を見える化

福岡県は、「福岡県SDGs登録制度」の組む企業や団体を県が広く公表し、その貢献を見える化することで支援。登録料は無料、登録の有効期間は3年間となる。申請書類等の提出が必要で、通年で受け付けている。

取組方針および重点的な取組を宣言していることとする。登録されると、▽県ホームページでの取組紹介▽オリジナルロゴマークの使用▽競争入札参加資格審査における加点対象▽「ふくおか県政推進サポート資金」が活用できる▽商工団体や金融機関による伴走支援を受けられる」などのメリットがある。

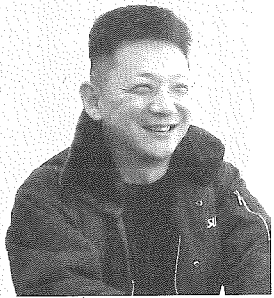
インタビュー

一般廃棄物・産業廃棄物の総合処理・資源化を進める勝田環境（茨城県ひたちなか市）は今年創業65年を迎える。今秋までには第2焼却炉が営業を開始。第1焼却炉と合わせて1日当たり処理能力が300トとなる。昨年7月、新社長に就任した望月徹男氏は三代目。持続可能な未来と社業の発展へ、熱と力あふれる挑戦を始めている。

事業承継を意識し、経営者になろうと勢いの強いところ。望月 物心つく頃です。長男でしたから、（後を）継がなきゃならないという感じはありました。21歳から、（故人）にこぼすと、青木環境事業（新潟県新潟市）さんへ働きに出ました。最初は不安で、自分でできるんだろつかと悩んでばかり。自分なりに完璧な

社員の成長を後押し

勝田環境 代表取締役社長 望月徹男氏に聞く



「何かから手を付けたいかかわからない」と話になった古川さん（故人）にこぼすと、まだ20代なのに40代みたいなことを考えると言われました。気持ちよく、前

望月 1961年勝田環境衛生事業として創業。90年代に産業廃棄物の焼却事業に参入し、その後、バイオマ

望月 常日頃社員に言っていることは、これまでも、それを生かすのは人です。社員一人一人の成長が大事。それを後押ししていきます。

望月 常日頃社員に言っていることは、これまでも、それを生かすのは人です。社員一人一人の成長が大事。それを後押ししていきます。

望月 常日頃社員に言っていることは、これまでも、それを生かすのは人です。社員一人一人の成長が大事。それを後押ししていきます。

御社の沿革を。 望月 常日頃社員に言っていることは、これまでも、それを生かすのは人です。社員一人一人の成長が大事。それを後押ししていきます。

望月 常日頃社員に言っていることは、これまでも、それを生かすのは人です。社員一人一人の成長が大事。それを後押ししていきます。

望月 常日頃社員に言っていることは、これまでも、それを生かすのは人です。社員一人一人の成長が大事。それを後押ししていきます。

災害時に処理を協力

三重県津市と協定を締結 ミダックは2月、三